

く平成29年度全国学力・学習状況調査から見るく

三島の子どもたち

全国学力・学習状況調査とは

全国の小学6年生と中学3年生を対象に行われている調査です。教科に関する調査（今年度は国語、算数・数学）と、生活習慣や学習環境に関する質問紙調査が行われました。

実施日 4月18日(火)

※調査結果は次のとおりです。

教科についての調査 (国語、算数・数学)

8月末に発表された結果では、市内の小学校は、すべての教科で、県の平均正答率を上回り、国語B、算数A・Bは、全国の平均正答率を上回りました。

中学校は、すべての教科で、全国の平均正答率を上回る結果となりました。A問題は、おもに「知識」に関する問題で、B問題は、「活用」に関する問題です。

【全国・県の平均正答率との比較：凡例は以下のとおり】

対象	教科	問題	全国との比較	県との比較	概要
小学6年生	国語	A			全国よりやや低く、県よりやや高い
		B			全国より高く、県よりやや高い
	算数	A			全国・県よりやや高い
		B			全国・県よりやや高い
中学3年生	国語	A			全国・県よりやや高い
		B			全国より高く、県よりやや高い
	数学	A			全国より極めて高く、県より高い
		B			全国よりかなり高く、県より高い



～以下表の凡例～

- 0.1～2.0ポイント低い
- 0.1～2.0ポイント高い
- 2.1～4.0ポイント高い
- 4.1～6.0ポイント高い
- 6.1～8.0ポイント高い
- 8.1～10.0ポイント高い

生活習慣や学習環境などの調査から分かること



学習や生活に関する質問紙調査からは、全国や県と比較して、次のようなことがわかりました。

みしまの子のすごさをいっしょに

- ◎人の役に立つ人間になりたいと思っている子の割合が高い
- ◎難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦する子の割合が高い
- ◎学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったと感じたことがある子の割合が高い
- ◎昼休みや放課後、学校が休みの日に、学校図書室や図書館に、週に1回以上行く子の割合が高い
- ◎外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う子の割合が高い

生活習慣が 学力に影響を及ぼす

生活や学習に関する質問紙調査の結果と学力の関係を分析すると、次のような子どもたちは、小・中学生ともに、A、B問題すべての平均正答率が高いことがわかりました。
 ＊家で、自分で計画を立てて勉強をしている子

＊1日あたりのゲームをする時間が少ない子(まったくしない子含む)

＊授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしている子

＊読書が好きな子

＊家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話している子

＊地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある子

＊新聞を読んでいる子

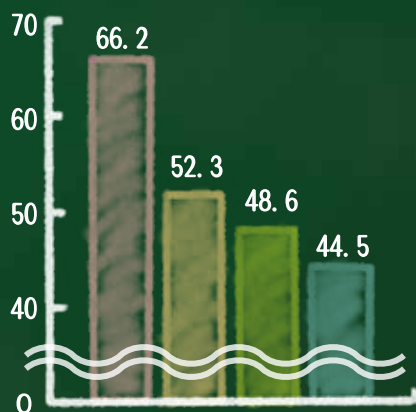
※下のグラフでは、生活習慣が学力に及ぼす影響を表しています。

自分の経験を学習内容に生かしています(生活科の授業:長伏小1年)



「新聞を読んでいるか」の回答と平均正答率との関係(%)

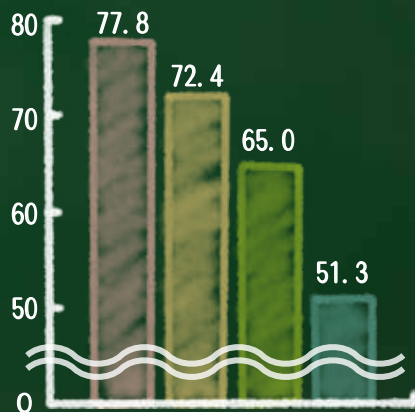
【小学生:算数B】



■ ほぼ毎日読む
 ■ 週に1~3回読む
 ■ 月に1~3回読む
 ■ ほとんど、またはまったく読まない

「授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしているか」の回答と平均正答率との関係(%)

【中学生:数学A】



■ 当てはまる
 ■ どちらかといえば当てはまる
 ■ どちらかといえば当てはまらない
 ■ 当てはまらない

積極的に英語を話すことが大事!(外国語活動:南小4年)



みしまっ子の伸ばしたいところ

- △家で自分で計画を立てて勉強すること(計画的に勉強している子:小学校62・2%、中学校46・2%)
- △家で学校の授業の復習をすること(復習をしている子:小学校45・8%、中学校40%)



▲グループで話しながら、理解を深めます(国語の授業:北上中1年)

現在、三島市の傾向をより詳細に分析しています。詳しい分析結果は、市ホームページと、小・中学生の保護者向けリーフレットに掲載します。(いずれも12月中旬予定)

問合せ

学校教育課 ☎9833・2671